

## 私なりの恩返し

広島市立安佐南中学校 3年 押谷 悠愛

「私は税について何も知らなかった。」

税について両親に聞いたとき、こう気づきました。昨年の十月頃の私は消費税の増税は何のためにするのか分からず、嫌だなと思っていました。しかし、税は私たちが安心して生活をするためには、とても大切なものだと知りました。

私は、予定帝王切開で母のお腹から出てきました。身長、体重ともに少し小柄な赤ちゃんでした。生まれてからすぐ私一人が入れるほどの大きさの箱のようなものの中に入り、何本もの管をつけ、すぐにNICU（新生児集中治療室）に運ばれました。私は、五〇〇〇人に一人がなってしまう先天性の病気でした。一部の臓器が成長しておらず、自分の力だけでは呼吸をすることすら困難な状態でした。

生後三日目、手術をしました。今でも、左腹部には手術痕があります。以前までは、この手術痕がとても嫌いでした。プールの授業で着替えをするときや、修学旅行などで皆と風呂に入るときは、自然と左腹部を隠していました。しかし、税金について知った今は違います。私一人のために、たくさんの税金が使われていました。この手術痕は、税の大切さや、ありがたさを再認識させてくれる私の宝物です。

もし日本に生まれていなければ、もし税という制度が存在していなければ、私は今、生きていないかもしれません。このことを念頭に置いて、今の私が唯一納めることができる消費税は負担だとは思わず、恩返しだと思って納めようと思います。

現在日本は、少子高齢化が進み社会保障費が増加すると予想されています。一方で、その費用を負担する働き手が減少することも問題の一つです。今の私は、教育を受けるために多額の税金を使わせていただいています。だから、しっかりと勉強をし、立派な大人になって、社会貢献ができるよう頑張りたいです。そして、何より税金をしっかりと納め、私を助けてくれた多くの人に税を通して恩返しをしたいです。

「税は循環しています。」納税を負担に思っている人に、こう伝えたいです。以前の私のように、なぜ納税をしなければならないのか分からない人に、こう伝えたいです。なぜなら、私自身が税は循環していると気づくことができた体験をしたからです。